

新年あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願い申し上げます



新たに開催が決定したコンベンション

The 27th International Conference on Electronic Properties of Two-Dimensional Systems (EP2DS-27)

The 23rd International Conference on Modulated Semiconductor Structures (MSS-23)

▶日 程 2027年7月25日(日)～2026年7月30日(金)

▶会場 くにびきメッセ

▶参加予定人数 350人

▶内 容 「EP2DS」は1975年から続く、「二次元（および低次元）電子系」の電氣的・量子的性質を扱う研究者たちが集う国際会議です。「MSS」は「半導体変調構造」の物理・素子応用に関する研究成果を発表・議論する国際会議です。
この歴史ある2つの国際会議は、近年は参加者が相互に行き来できるよう2年おきに合同開催され、米国・欧州・日本を6年ごとに巡回しています。2027年は、「EP2DS-27」「MSS-23」として松江市のくにびきメッセで開催されます。

くにびきメッセファンクラブ交流会(九州・首都圏)を開催しました

11月に九州(福岡)、12月に首都圏(東京)にて、「くにびきメッセファンクラブ交流会」を開催しました。食事を交えながら、今年松江で開催された国際会議の主催者や開催予定者からの学会情報など貴重なお話を伺うことができました。

島根県の食材を使った料理や地酒も用意し、和やかで楽しい雰囲気の中、参加者の交流を深めていただきました。

近年、松江市での国際会議の開催件数が増加しているのは、会員の皆さまのご協力の賜物と深く感謝申し上げます。当会は、来年度も全国各地での開催を予定しております。



くにびきメッセ関連情報

施設利用料金改定のお知らせ

日頃より、くにびきメッセをご利用いただき誠にありがとうございます。

当財団は、平成13年（2001年）から20年以上にわたり利用料金を据え置いてまいりました。しかしながら、近年の物価の高騰に伴い、運営コストが上昇している状況です。そのため、2026年4月1日より施設利用料金を改定させていただくこととなりました。

なお、2026年3月31日までに利用承諾をした場合は、従来の料金を適用させていただきます。

お客様にはご負担をおかけし、大変心苦しい限りではございますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、くにびきメッセの[ホームページ](#)をご覧ください。

最先端光計測シンポジウムが開催されました

2025年11月28日に、くにびきメッセにおいて最先端光計測の国際シンポジウムが開催されました。

本シンポジウムは、国が推し進める「将来の国際会議主催者育成のための地域・大学連携等促進事業」の支援を受け、地域の歴史・伝統産業や観光と地方大学の独創技術を融合した新ビジネスモデルの創出と産官学連携による新たな国際会議主催体制の構築を目指して、島根大学が主催し、島根県、松江コンベンションビューロー、くにびきメッセも共催しました。

多目的ホールではシンポジウムが行われ、大展示場ではポスターセッションや企業展示が実施されました。また、懇親会では石見神楽の披露もあり、約200名の参加者の皆さまから大変好評をいただきました。

翌日には、出雲大社コースと菅谷たたらコースに分かれてのエクスカージョンも開催され、学術関連拠点の訪問も行われました。

今後も、地元の大学などと連携を深めながら、さまざまな催しに取り組んでまいりたいと考えております。



しまねの伝統工芸

広瀬和紙

安来市広瀬町に広瀬和紙の工房があります。広瀬の紙すきは近世に入ってから松江藩主松平直政の子、近栄が、広瀬町字祖父谷（おじたに）に松江藩の工人を移住させ、御紙屋としました。江戸時代から300年余、地方製紙業が続いてきました。

故 人間国宝 安部榮四郎が育った八雲村はこの祖父谷紙の技術が江戸中期に伝えられたものといわれています。明治の頃は特に盛況で、障子紙、中折紙、書道用紙が全国でも名声を得ていましたが、大正時代には機械抄紙の進展で衰退を迎えます。

このころ、安部榮四郎は民芸運動の創始者 柳宗悦との出会いを機に技術を切磋琢磨して、出雲民芸紙を創作しました。

広瀬町下山佐で代々紙業を営んでいた長島勲さんは、昭和36年4月より安部榮四郎工房に行き、技術指導を受け、そこで12年、純粋な和紙制作に励みます。昭和48年5月には、念願の「広瀬和紙」として、自宅で制作を始めます。楮、三桧、雁皮の質を生かした作品は便箋や封筒、障子紙、ちぎり絵用紙として人気を博しています。

その長島さんも80歳を超え、廃業を考えられます。そうした折、浜田で和紙制作に携わりながらも、スキルの研鑽に行き詰まっていた大東由季さんが広瀬和紙を知り、工房を訪ねたとか。長島さんの姿勢に感動し、初対面で弟子入りをお願いすることになりますが、条件が継承問題。

即答で「やります」と答えました。ここから約3年修業期間を経て、5代長島さんより、6代大東さんへ広瀬和紙は継承されました。

まだまだ人気の高い障子紙の依頼がある長島さん。あらたに「広瀬和紙 紙季瀧」として制作に励む大東さん。行政の支援もあり、創業し始めたばかりですが「広瀬和紙」が見事に継承されています。

今後も優しい時が続きますように。

